

令和８年度第１回「群馬県企業局経営基本計画委員会」

会議結果の概要

日 程：令和７年９月１日（火） １１時００分～

場 所：県庁２８階 企業局第二会議室

出席者：（委 員）

赤尾委員、新井委員、宇野委員（座長）、大貫委員、櫻澤委員 計５名
（企業局）

企業管理者、企業局長、企業局技監、本局各課長 計７名

内 容：令和７年度群馬県企業局の決算、群馬県企業局経営基本計画の評価（令和
７年度実績）について、外部有識者等からの意見聴取を実施したもの。

配布資料：

次第、出席者名簿

資料１ 令和７年度 群馬県企業局の決算について（速報）

資料２ 第２次群馬県企業局経営基本計画進捗状況【様式１】（令和７年度実績）

参考１ 第２次群馬県企業局経営基本計画進捗状況【様式２】（令和７年度実績）

参考２ 第２次群馬県企業局経営基本計画進捗状況【様式３】（令和７年度実績）

参考３ 令和８年度公営企業の概要

参考４ 群馬県企業局経営基本計画委員会設置要綱

１ 開 会

２ あいさつ（企業管理者）

- ・ 企業管理者より開会の挨拶

３ 自己紹介

- ・ 各出席者、自己紹介。

４ 議 事

- （１）令和７年度群馬県企業局の決算について

資料 1 に基づき総務課長が説明。

(2) 群馬県企業局経営基本計画の進捗状況の評価について

資料 2 に基づき各課長が説明。

5 質疑応答（進行：宇野座長）（●：質問・意見、○：回答）

議題 1 令和 7 年度群馬県企業局の決算（速報）について	
●委員	団地造成事業において、板倉ニュータウングリーンブロックの時価引き下げに伴う特別損失の金額はどの程度か。
○総務課長	約 7,058 万円の特別損失となった。
●委員	各事業の事業経費の増減の関係について、人件費が高騰しているなか、修繕費の増加などどれだけの影響があったのか。
○総務課長	後日回答する。【別紙回答】
●委員	電気事業について、少雨による電力量の減少とあるが、再生可能エネルギーについてはコントロールが難しいというところがあるなか、契約した量が発電できなかった場合はどうするのか。ペナルティが存在するのか。
○発電課長	契約にあたり目標電力量を示しているが、それに対して降雨などで増減することを前提とした契約となっているため、ペナルティ等は生じない。
●委員	発電事業の修繕費が増加したとのことであるが、こういった内容の修繕費が増加したのか。
○発電課長	主に水力発電所における分解点検に係るものや、大規模工事が多い。そのなかには、壊れたから直すのではなく、壊れる前に対応する予防保全が含まれている。
●委員	水道事業の特別利益となった解決金とはどのような案件か、またその金額は。
○水道課長	浄水処理材の活性炭に関する訴訟の解決金であり、約 5,300 万円である。
●委員	電気事業について、前年度より販売電力料が減少したことは、主に少雨が原因とあるが、工事による停止は想定通りなのか、それとも想定外の工事による停止が発生したのか。 また、経常利益について、もともと利益は落ちる想定であったが、それ以上に落ちた要因が販売電力料の減少や修繕費の増加という理解で良いか。
○発電課長	工事については、相俣発電所や矢倉発電所で想定外の故障によ

- る長期停止の影響があった。それ以外についてはご認識のとおり。
- 委員 工業用水道についても、料金改定により想定どおりの利益の増加に繋がったのか、それとも想定どおりになっていないのか、想定と実績の比較が総括として分かるようになっていないと良い。
- 企業管理者 経営基本計画における計画値に対する実績値の説明をさせていただいた方が良いという理解で良いか。
- 委員 必ずしもそれだけで良いということではなく、それらを含めて今回の実績を総括的にどう評価したのかというコメントも含めて記載があると良い。
- 委員 基本計画の p 89 の表において、計画値に対する実績値が出てくるが、その数値が想定どおりなのか想定外なのか、その辺のコメントがあると良い。
- 企業局長 本資料は、前年度対比を主眼に作成しているので、次回以降は計画対比を行い、計画に対して今回の数値をどう評価するのかという観点で県側の評価を含めた改善を行う。
- 委員 対前年値、対計画値をみて総合的にどう評価するのかという観点で作成をお願いしたい。

議題 2

群馬県企業局経営基本計画の進捗状況の評価について

- 委員 資料 2 について、正直分かりにくい。電気事業でいうとリニューアルや新規建設に関して、実績のパーセントがあるものの計画のパーセントが分からない。また、進捗数値の評価基準が不明確である。計画 44% に対して実績 43% は「遅延」という評価が妥当なのかどうか。
- 発電課長 数値目標については、昨年度の計画の改定を受け、進捗の指標として追加したものである。
- 一方で、リニューアルについては令和 7 年度中に四万発電所の運転開始できなかったこと、新規建設については霧積発電所の運転開始が令和 7 年度にずれ込んだこと、ほたかのめぐみかわば発電所が予定通りに令和 7 年度に工事着工できなかったことで遅延としている。
- 企業管理者 四万発電所については、運転開始というのは大きなマイルストーンであったこともある。一方でリニューアル全体として、令和 12 年度で達成できるかという視点では順調とも言える。
- 評価については難しいところがあるが、補足説明を入れるなど次回以降は修正させていただきたい。
- 委員 圧油装置レス化に変更した箇所について、前年度、生分解性の

油にして環境負荷を低減する手法は検討したのかという質問に対して、「採用実績がない」との回答があったが、対応できる事業者が限られており、その会社での実績がないということで良いか。

○発電課長

圧油装置レス化は大規模工事になり、メーカーが担うことが多く、操作油に生分解性の油を使用した事例はないと認識。

○企業局技監

メーカー独自の設計を行っており、油に大気開放や温度変化が激しい環境下等で粘性を維持することが求められる。添加剤等で経年劣化に対応できるかが課題である。

●委員

新たに作るものは圧油レスで良いと思うが、そのためだけに大規模改修をするのであれば、生分解性を検討するような選択肢もあるのではないかという提案である。

●委員

板倉ニュータウンについて、60 区画の分譲を目指しているが、周辺の住宅建設の様子を踏まえると、グリーンプロックに買手が付くのか懸念している。なにか施策を考えているか。

○団地課長

ご認識のとおり、大学が撤退する等目標を作成した時から状況が変化している。グリーンプロックを契約された方の購入動機は、水素やマイクログリッドではなく、駅や商業施設に近い立地に魅力を感じているようである。都心に近いことを含めてアピールしていきたい。

●委員

ゴルフ場事業について、県内外者の利用比率と、今後の運営の見通しについて現状の考えはどうか。

○団地課長

板倉ゴルフ場については、県外者が多い。他のゴルフ場については、県内・県外者の利用が同程度である。

クラブハウスの建替えによる減価償却を除けば、現在の指定管理者からの納付金で維持できる。一方で、コロナ禍による利用者減少以降、減少が続いている。目標の 4 万 5000 人が維持できれば問題ない。

6 閉会